
バカとCLANNADと召喚獣

岡崎朋也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとCLANNADと召喚獣

【ZINE】

Z5089Y

【作者名】

岡崎朋也

【あらすじ】

どうも作者です僕は小説を初めて書くのでわからない所や間違えるところもあると思うので、よろしくお願ひします。ストーリーなのですが、原作どうり行くところもあれば、原作ブレイクするところもあると思います。多分予定ではオリキャラを出すかもしないのでよろしくお願いします。

一応学生なので毎日更新できるかわかりません。

プロローグ（前書き）

この作品で初めてなのでわからない所がたくさんあるのでアドバイスしていただけすると嬉しいです。()の中の言葉はキャラが思っていることです。

プロローグ

俺はゆっくり歩いていた。季節は春、桜の舞い散るこの桜並木道を上ると俺の通っている学校だ。だが今は誰も登校していない。そう時間は8時30分、あと15分ほどで授業が始まってしまうだろうが足は速めない。

朋也「はあ。」

この坂道の長さに思わずため息が出てしまった。しばらく歩いていると俺の通っている学校の制服を来ている女子生徒がいた。

「？」「はあ、あんぱん。」

朋也「つ！」

「？」「この学校は好きですか？私は、とってもとっても好きです。でも何もかも変わらずにはいられないです。」

朋也（見知らぬ女生徒、俺に向けられた言葉ではなかつた。多分心中の誰かに語りかけているのだろう。）

「？」「楽しい事とか嬉しい事とか全部、全部変わらずにはいられないです。それでも、それでもこの場所が好きでいられますか？」

朋也「見つければいいだろ。」

「？」「えつ。」

そいつは隣に誰もいないはずなどと思つていたのだろう。

朋也「次の楽しい事とか嬉しい事を見つければいいだけだろ？ほら、行こうぜ。」

そう言つと隣の女生徒がうなずいていた。

朋也（俺たちは上り始める、長い、長い坂道を。）

しばらく会話もなく、校門についた。校門の前に立っていたのは見えのあるバカ2人とごつい筋肉教師の姿だった。その時俺が本能的にあの教師に遅刻した事がばれるといけないと想い逃げ出そうとした次の瞬間。

筋肉教師「おここり岡崎どこに行こうとしている。」

と野太い声が響いた。

？？？「ほら鉄人、僕たち以外にも遅刻者がいたじゃないですか。」

？？？「そうですよ鉄人。誰ですか新学期早々遅刻するのはお前たちぐらいだつて言つたのは鉄人じやないですか。」

ガンツ、ゴツツ、鈍い音が2つ響いた。

鉄人「誰が鉄人だ。西村先生と呼べといつも言つているだろうが。それに遅刻が悪い事だらうが。吉井と春原」

朋也「毎日飽きずに良くやるなあ。」

明久、春原「見てないで助けてくれよー。」

朋也「アホがうつるからいやだ。」

明久「そんな」。

春原「あんた、めちゃくちゃ薄情すねえ。」

鉄人「おいこら、そこ遅刻4人組これがお前らのクラスだ。」

？？？「私は見なくともわかります。」

鉄人「そうは言つても規則だからな古河。」

古河「はい。」

岡崎朋也Fクラス

古河渚Fクラス

吉井明久Fクラス

春原陽平Fクラス

春原、明久「なんだよFクラスつて。」

朋也「文句があるならもつと勉強しとけ。」

とみんなで喋りながら、Fクラスへ向かう。

プロローグ（後書き）

なんか中途半端な終わり方でしたね。次からは気をつけます。できればアドバイスなどをお願いします。

CLANNADキャラ召喚獣初期設定（前書き）

CLANNADキャラの召喚獣を決めました。これからもよろしく
お願いします。ガンダム系等と混ぜました。これは初期設定なので
ストーリーが進むと変わると思います。

CLANNADキャラ召喚獣初期設定

岡崎朋也の召喚獣は観察処分者のため特別仕様です。

装備

国語、古典時、ほぼストライクガンダムと同じ装備です。

数学、物理、化学時、ほぼソードストライクと同じ装備です。

日本史、世界史、現代社会時、ほぼランチャーストライクと同じ装備です。

英語、保健体育時、ほぼエールストライクと同じ装備です。

総合科目時、ほぼフリーダムガンダムと同じ装備です。

腕輪の能力1つ目「換装」50点消費して召喚者の思いどおりに装備をソード、ランチャー、エール、フリーダムに変えることができます。2つ目は「マルチロックオン」100点消費して召喚フィールドにいる全部の召喚獣に攻撃できる。マルチロックオンはフリーダムの時だけ使える。

春原陽平の召喚獣は観察処分者のため特別仕様です。

装備

国語、古典時、ザクウォーリアと同じ装備です。

数学、物理、化学時、ザクファンタムと同じ装備です。

日本史、世界史、現代社会時、グフナイテッドと同じ装備です。

英語、保健体育時、バビと同じ装備です。

総合科目時、ドムトルーパーと同じ装備です。

春原は400点台取れないので腕輪の能力は書きません。

装備

毎回、だんご大家族の絵柄のついた弓と小刀と着物を装備しています。

腕輪の能力は「追尾」100点消費して撃った矢を必ず命中させます。

藤林杏

装備

毎回、ブーメランと強化金属をつけた辞書と軽鎧を装備しています。腕輪の能力は「巨大化」80点消費して、投げたブーメランか辞書を巨大化させます。

藤林棕

装備

毎回、タロットとトランプとロープを装備しています。腕輪の能力は「先読み」50点消費して相手の召喚獣の動きが確実にわかります。

一ノ瀬ことみ

装備

毎回、長刀と短刀と重鎧を装備しています。

腕輪の能力は「破壊」150点消費して、相手の武器を破壊して使えなくします。

坂上智代

装備

毎回、手にはメリケンサック足には仕込みナイフと黒い服を着ています。

腕輪の能力は「倍速」2倍速の場合25点消費して動きを加速させます。倍速は2倍速から10倍速まであります。

伊吹風子

装備

毎回右手にはヒトデ型ナイフ左手には彫刻刀、体はヒトデの絵柄が入ったロープを身に着けています。

風子は400点取れないので書きません。

宮沢有紀寧

装備

毎回右手にはおまじないの大きな本と左手には太刀を装備しています。

宮沢は400点以上取れないので腕輪の能力は書きません。

いかがでしたか？この装備は初期仕様なので、あとから変えると思います。

CLANNADキャラ召喚獣初期設定（後書き）

観察処分者仕様のはガンダム系から引っ張つてきました。もしよかつたらアドバイスや誤字脱字などがあれば指摘していただけます

第2話（前書き）

どうも作者です。今日は学校の体育が持久走だったので疲れました
）。

さて今回はトクラスのキャラまで書く予定です。

第2話

みんなでFクラスに行く途中、Aクラスを通つて行く時また明久と春原が騒ぎ出した。

春原「おい見る岡崎、Aクラスの設備～かなりいい設備だぞ。システムデスクにリクライニングシートノートパソコン支給にそれだけじゃないな。」

明久「朋也も見てみて、フリードリンクサーバーにお菓子も食べ放題だし、あれは～？」

渚「あればプラズマディスプレイですね。あれを使って授業をするんです。」

朋也「本当だ。すごいなあーだがこれが格差社会といつやつだな。」

渚「本当に何度もAクラスはすごいところですね。」

ん何度も？1年生の時はまだクラス分けはなかつたはずだし、理由もなくほかの学年の校舎に入ることは禁止されてるはず…まさか。朋也「なあ古河もしかしてお前つて留年してるのか？」

そういうと古河は少し残念そうな顔をして答えてくれた。

渚「はい：私は体が弱くて1年前の振り分け試験の時も病気で休んでしまつてFクラスの生徒になつてFクラスの環境で授業やお弁当を食べていたりするとすぐ病気になつて9ヶ月も休んでしまつて、知つてる人は全部進級してしまつて浦島太郎の気分を味わいました。」

朋也「だからあんな独り言を、言つてたのか。部活とかやってなかつたのか？」

渚「はい本当は、演劇部に入りたかったんですけど私は体が弱いからちゃんと活動できそうになくて…。」

朋也「できる範囲で活動したらいいんだ。放課後部室に行つてみたらどうだ。」

と俺が言つと「クンとうなづいたのでそろそろ教室に行くことにして

た。

朋也「おーいそこの馬鹿2人おいて行くぞー。」

と言つといきなり2人が走り出して。

春原&明久「くそー上下関係なんて、大つ嫌いだ」「などと言つてFクラスに向かつて大声で走り出した。すると古河が不思議そうな顔をして、

渚「春原さんと吉井君どうしたんでしょう?」

朋也「さあな、いつもあいつらはあんな感じだから俺にもよくわからん。さてとそろそろ俺たちも行こうぜ。」

渚「はい。」

少し小走りに行くことにした。もし担任が鉄人だつたらひとまりもない。

Fクラスにつくと馬鹿2人が息切れしていた。

朋也「おいこいらそこの馬鹿2人、そこをどけ。」

と言つて蹴り飛ばす。

明久&春原「ぐはっ。」

がらつ（扉があく音）

朋也「畳に薄つぺらい座布団に卓袱台に隙間風の入る教室にカビとホコリの舞う教室とはこれじや体調が悪くなつても仕方ないな。」

春原&明久「ごめんなさいちょっと遅れちゃいましたっ」「????」「殺すぞ。」

春原「ヒイツ。」

明久「それはいくらなんでも教師だからつていいすぎじゃあ…」

朋也「おいおい、そいつは教師なんかじゃないぞ。なあ雄一。」

雄二「よ、朋也やつぱりお前もFクラスだったか。」

朋也「それはお互い様だな。お前が黒板前にいると言つことは、お前が代表か?」

雄二「ああ、相変わらず鋭いところもあるなあお前は。そしてお前が副代表だ。」

朋也「マジですか?俺そういうの苦手なんだけど。」

雄二「まあそう言つたそんなんにめんどい仕事はないから。」

春原「おい2人とも先公が来たぞ。」

先生「こんにちは私が2年Fクラスを担任することになつた福原で
すよろしくお願ひします。ちゃんと卓袱台と座布団は支給されてい
ますか?不満がある人は言つてください。」

明久「先生僕の座布団ほとんど綿が入つてないんですけどー」

春原「先生隙間風が寒いんですけどー」

福原「あ～え～我慢してください。」

バキッ(卓袱台の足が折れた音)

明久&春原「先生卓袱台の足が折れたんですけどー」

福原「我慢してください。」

明久&春原「無理だつたの!」

福原「あはは、冗談ですよこの木工用ボンドで後で付けてください。」

コトツバキッ(福原がボンドを置いたので教卓が壊れた音)

福原「工具を取つてくるので皆さん自習をしておいてください。
先生がいなくなると明久が真っ先にしゃべりだした。

明久「流石は学力最低クラス見る限りむさい男ばっかりだねー」

雄二&朋也「お前もそのうちに入つてるけどな。ほかにも俺たちが
知つてゐる奴いるぞ。」

???「ハロハロー、ウチもFクラスよ。」

明久「そうかやつぱり島田さんはFクラスだよね。」

美波「(怒)何よウチがバカだとでも言いたいの。」

といつてそいつは明久に関節技をキメ始めた。

???「…見えそうで見えないつ。」

その下ではムツツリーーーこと土屋康太が島田のスカートの中をのぞ
いていた。

ムツツリーーー「…見えそうで見え見えーブシャアアアアアア。」

バタツ(ムツツリーーが倒れる音)

???「相変わらずお主らは元気じやのう。」

明久「ああっ、秀吉へ秀吉もFクラスなのか～。」

秀吉「うむ1年間よろしく頼むぞ。」

ガラツ（ドアが開く音）

？？？「おくれてすいませーん。保健室に行つていたら遅くなつてしましました。」

流石にこれには驚いたAクラス候補だった。姫路瑞希がFクラスにいたのだから。

第2話（後書き）

いかがでしたか。次の話では試験召喚戦争の話までは行きたいと思います。よろしければアドバイスや感想などをよろしくお願いします。副代表というのを作りましたまあ簡単に言えば代表の次に偉い人ですね。

第3話（前書き）

どうも～作者です。なんかもうすぐ期末テストがあるみたいで～毎日は更新できなくなるかも知れません～ですができるだけ頑張るのでも、よろしくお願ひします。

さて今回は試験召喚戦争の話までは行きたいと思います。

第3話

そして姫路が入ってきた後すぐに、先生が来たのですぐみんなが静かになつた。

福原「えー今日はー学期初口と言ひついとで、皆さんに自己紹介をしてもらいましょうか。」

と先生が言つたので、自己紹介が始まつた知つてゐやつ以外は聞き流していたのだが、やがて春原の番になつた。

春原「春原陽平です。ニックネームはー」

朋也「へタレと呼んでやつてください。その方がいつも嬉しがるので。」

Fクラス一同「へタレ～へタレ～へタレ～。」

なんということでしょう。俺の一言で春原のあだ名はへタレになつてしまひました。

美波「島田美波です。趣味は吉井明久と春原陽平を殴ることです」
春原&明久「やめてください。」

ムツツリーー「…土屋康太。趣味は盜さ…特に何もない特技は盜ちよ…何もない。」

俺は相変わらずだなあと苦笑いをした。などと思つてると、俺の番になつていた。

朋也「岡崎朋也だー年間よろしく頼む。それと一応副代表になつた。」

「適当に言つて席に戻つた。

須川「あんなカワイイ子一年生の時、見たことあつたつけ？」

渚「古河渚です。好きなことは演劇ですよろしくお願ひします。」
ホツ」

次は秀吉の番だった。何か秀吉は元気がなよつだ。何かあつたのだろうか？

秀吉「木下秀吉じゃよろしく頼むぞ。突然じゃがお主らの中に演劇

に興味があるものはおらぬかの？今は演劇部が廃部のピンチでもしも興味があるならワシのところまで来てくれると嬉しいのじゃ。」

今、言葉は古河にはいいチャンスじゃないか。と思つたところで、なぜかFクラスにいる姫路瑞希の番になつた。

瑞希「姫路瑞希と言いますよろしくお願ひします。」

須川「質問です。なんでここにいるんですか？」

ストレートに質問するな～あれじやあ失礼だぞ。まあ、俺も聞きたかったのだが。

瑞希「私は熱が出てしまつて途中退席したから〇点なんです。コホツ、コホツ」

明久が心配そうに聞いた。

明久「姫路さんまだ具合悪いの？」

少し姫路が驚いたようだつた。

瑞希「吉井君？ええ、はいもうだいぶ良くなっています。」

などと話している内に、最後の奴、雄二になつた。

福原「そういうえば、坂本君はクラスの代表でしたね。このクラスの目標などもよろしくお願ひします。」

雄二「Fクラス代表坂本雄一だ。皆、早速だが提案だ。このFクラスに不満はないか？」

Fクラス一同「大ありじゃーー。」

Fクラス一同の魂の叫びだつた。

雄二「どうう俺も代表として問題意識を持つている。だからFクラスはAクラスに試験召喚戦争を挑もうと思つ。」

第3話（後書き）

いかがでしたか。さて次は「よいよ試験召喚戦争開始ですね。それと演劇部のこともちよくちよく書いて行こう」と思います。

第4話（前書き）

どうも作者です更新遅くなつてすこませんやつと期末テストが終わつたので書いて行こうと思ひます。

Fクラス一同「勝てるわけがない。これ以上設備を落とされるのは嫌だ。姫路さんと古河さんがいれば何もいらない。」

雄二「まあ待てお前ら、俺はこのFクラスに勝てる要素があるから言っているんだ。おい康太、古河のスカートの中を覗こうとしてないでこっちに来い。」

渚「は、はわつ。」

ムツツリーーー「…つ（ブンブン）」

雄二「紹介しよう。みんなこいつが、あの有名なムツツリーーだ。」

ムツツリーーー「つ（ブンブン）」

ムツツリーーーと言つ名にクラスはどよめきが走った。その名は男子からは畏怖と敬畏を女子からは軽蔑を持つてあげられているが、その正体は謎であつたためどよめきが走つたのは無理もないだろ？

雄二「それに姫路や俺、木下秀吉や古河渚だつている。」

Fクラス一同「おおつ、なんかやれる気がしてきた」姫路さんと古河さんは調子が悪かつたわけで、Aクラス候補が3人もいるわけだ。

雄二「それに岡崎朋也と吉井明久と春原陽平だつている。」

Fクラス一同「……誰だそいつら？」

明久＆春原「おいこいら雄二」なんでそこで僕たちの名前があがるの？せつかく皆がやる気になつてたのに一気に落ちたじゃないか。」

朋也「なぜ俺の名前を出す必要があるんだ？」

雄二「まあそう言つな。特に朋也お前は頭が悪いわけじゃないだろ。さてみんなこいつら3人は観察処分者だ。」

Fクラス一同「え、それってバカの代名詞じゃなかつたつけ。」

明久「違うよ。ちょっとお茶目な16歳につけられる愛称で。」

雄二「そうだ、バカの代名詞だ。」

明久「そこを肯定するなバカ雄二。」

雄二「だがな朋也の頭だけは悪くないんだ。本気を出せば、本気を出した俺以上の点数が取れる筈だ。」

Fクラス一同「観察処分者なのにバカじゃないってすげー」これなり

Aクラス何てぶつ潰してやるぜー。」

朋也「おいおいあまり期待しないでくれ。俺は頭が悪いぞ。」

雄二「まずは手始めにEクラスを落とそうと思つ。明久、陽平お前たちに、宣戦布告の生贊いや使者となつてもらひ。」

明久&春原「ねえ雄二、今生贊つて言つたよね。」

朋也「いいから騙されたと思つてさつと逝つて來い。」

春原&明久「はーー(泣)」

流石にこれには少しかわいそうに思えてきた。だいたい下位勢力の使者つてヒドイ目に合つんだよな。

明久&春原「騙されたよおおつ。」

雄二&朋也「やつぱりなあ。」

明久&春原「予想してたのかよ。」

雄二&朋也「ああそのへりへり予想できないと(副)代表は務まらん。」

明久&春原「少しは悪びれるよ。」

雄二「で、お前らちやんと宣戦布告してきたんだろ?」

明久「うん一応明日の昼からつてことになつてるけど。」

朋也「よしみんなペンをどれ補充試験するぞ。」

Fクラス一同「おおーつ。」

第4話（後書き）

いかがでしたか。久しぶりの更新になってしましました。とても期末テストだるかつた。この後持久走大会もあるし修学旅行もあるのできついです。ですができるだけ毎日更新していくのでこれからもよろしくお願ひします。

第5話（前書き）

いつも作者です今日は演劇部のことを書いりたいと思います。みなしく
お願いします。設定では演劇部は今秀吉一人しかいないということ
にしています。

第5話

補充試験も終わった後、古河が秀吉のところに向かうのが見えたので、演劇のことだと思いついて行つてみた。

渚「あの、木下君ちょっとといいでですか？」

秀吉「うむ、構わぬがどうしたのじや？」

渚「えつと、私演劇部に入りたいのですがどうしたらいいでしょか？」

秀吉「おおつ、それはまことかの。とても嬉しいのじや。だがの今古河が入つたとしても2人にしかならんのじや。」

古河「後何人必要なんですか？」

秀吉「部活をするためには、あと最低でも7人は必要なのじや。」

古河「そうですね」岡崎さんたちに相談してみてはいかがですか。ちょうど7人くらいになると思いますけど。」

秀吉「そうじやな、相談してみようぞ。」

朋也「なら俺が今から集めてきてやるよ。」

秀吉&渚「朋也（岡崎さん）」

いつものメンバーを集め終わつた後、古河と秀吉が前に出て要件を言い始めた。

秀吉「皆、頼みがあるのじやがいいだろうか？」

明久&春原「いいよー秀吉の頼みなら何でも聞くよ」

雄二「俺は要件しだいだな。」

ムツツリー「……報酬しだい。」

美波「別に難しこじやないならOKよ。」

瑞希「私も美波ちゃんと同じです。」

秀吉「ならば、单刀直入に言つ演劇部に入つてくれんかの。」

明久「どういうことなの秀吉。」

秀吉「今の演劇部の部員は古河とワシだけなのじや。このままでは廃部になつてしまつるので、部員が必ず7人必要なのじや。ほかにお

主ら以外に頼めそうな人がおらぬでの。それにワシはお主らと一緒に演劇がしたいのじゃ。」

明久＆春原「僕たちはみんなが一緒にしてくれるならいいよ。」

上の馬鹿2人は、笑つて言つている。

朋也「俺はいいと思うぜ。楽しくなりそうだからな。」

雄二「まあいいだろアイツから逃げれることにも必要だからな。」

雄一はニヤッと笑みを見せながら言つた。

瑞希＆美波「吉井（君）が入るなら私も入る。^{ウチ}」

この2人は明久がいればいいんだろうな。と心の中で笑う。

ムツツリー「……カメラも使ってもいいなら。」

こいつはカメラを使って珍しい写真（女子限定）を取るのだろうなと思った。

秀吉「皆、ありがとうのじゃ。ではワシは部長として顧問の先生の報告をしてくるので、先に帰つていてほしいのじゃ。」

朋也「そいや試験召喚戦争は朝からなのか？それとも昼からなのか？」

春原「たしか明日の13時30分から開戦するって言つてきたよ。」

明久「明日は試験召喚戦争だから昼ご飯は少し豪華にソルトウォーターでも食べようかな。」

雄二「てかお前の主食つて水と塩だけだろ。」

明久「失礼な。ちゃんと砂糖だつて食べているよ。」

朋也「明久それは食べるではなくめるだと思うぞ。」

瑞希「え？ 吉井君って昼ご飯食べない人なんですか？」

明久「いや親からの仕送りはもらつてるんだけど…ゲーム等に使いすぎて、お金がないんだ。」

瑞希「では明日は私がお弁当作つてきてあげましょつか？」

明久「ありがとうございます姫路さん。」

渚「私も家がパン屋さんなのでよかつたら持つていきますね。」

明久「2人とも本当にありがとうございます。」

この時俺が思ったことはとても嫌な予感がするということだけだつ

た。

第5話（後書き）

いかがでしたか。次こそは試験召喚戦争開始のところまでは行きた
いと思うのでよろしくお願いします。感想やアドバイス等もよろし
ければお願ひします。

6 説明（説明文）

すこません。ちょっと用事があつて更新できませんでした。これからもお願いします。さて今回はあるキャラクターを用ひたいと思います。

時間は昼休み場所は屋上、その時そこに広がっている光景は地獄絵図だった。俺はジャンケンで負けて、みんなの分の飲み物を買ってきていたので巻き込まれなかつた。そこに広がつてゐる光景は泡を吹いて倒れているのは明久、春原、ムツツリー、その光景を見て震え上がるのは雄一、秀吉、島田、俺状況がよくわからずオドオドしているのは姫路、古河だつた。

朋也「おい雄一、なんでそこで3人仲良くなつぱつてゐるのがいるのだがどうしてだ？」

俺は震える声で聞いてみる。

雄二「ああそうだな、どうしてこうなつたかと言つと、明久とムツツリーが姫路の弁当を食べた後バタンと2人がぶつ倒れて春原は古河が持つてきたあのレインボーパンと言つやつが原因のようだ。」と雄二が指をさした姫路の弁当を見てみると普通なのでよくわからなかつたので聞いてみた。

朋也「おい、姫路その弁当に何か特別なものをいれたか？」

瑞希「あまり変わつたものは入れてないですよ。隠し味に塩酸と硫酸とかを入れましたけど。」

おいおいなんで食べ物を作るのに化学薬品が入つてゐるんだしかも塩酸+硫酸=王水だつたような気がするのは気のせい?かなりびっくりしたしこれ以上聞くのは心臓に悪いので古河の手にある虹色に光る謎のパンについて聞いてみることにした。」

朋也「おいなんでそのパンは虹色に光つてゐるんだ?しこもそれは誰が作つたんだ?」

渚「私もなぜ虹色に光るのかわからないのですが作つたのはお母さんです。お母さんは普通の料理はおいしいのにパンだけはうまく作れないそうです。まあこれはお父さんが入れた失敗作のパンです。お父さんのパンは美味しいですよ。」

そう言わされたので普通のパンをちょっと齧つてみると、とてもうまかつたので全部食べてしまった。

雄二「おい朋也大丈夫なのか？」

朋也「おう、とてもうまいぞ4人とも食べてみる。」

俺はそう言つてそれぞれにちぎつて渡した。そして4人が恐る恐る食べるとみんなの表情がとても明るくなつた。

雄二「うめえ古河これ本当にお前の父親が作ったのか？」

渚「はい、お母さんは兎も角、お父さんはとてもおいしそうで評判なんです。」

朋也「そろそろ作戦会議をしようぜ。」

雄二「そうだな朋也その馬鹿どもを起こしてくれ。」

朋也「わかったおい起きろムツツリーーー、春原、明久。」

ムツツリーーーには言葉だけで後の馬鹿2人は蹴り起こした。

ムツツリーーー「…臨死体験をしてしまった。」

明久&春原「いてて、何も蹴り起こさなくとも。」

雄二「ブリーフィングを始めるぞ。まず、前線は明久と春原に任せる。そしてムツツリーーーと秀吉と島田は中堅に回ってくれ。そして最後に朋也と古河と姫路はEクラス奇襲を仕掛けてくれ後ろから回り込めば行けるだろう。異端審問会メンバーは前線と本陣援護に向かわせるこれでいいか？」

皆「了解した。」

雄二「開戦だ。皆気合い入れていけー。」

朋也「んじゃ行くぞ姫路、古河。」

瑞希&渚「はい。」

しばらく進んでいくと、手に木彫りの星?を持つているEクラスの生徒に出会つてしまつた。

???'止まつてください。Eクラス伊吹風子は岡崎さんに試験召喚勝負を申し込みます。」

6話目（後書き）

いかがでしたか、次は戦争の終わりまで行けるといいなーと思いま
す。これからもアドバイスや感想などがあればよろしくお願いしま
す。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5089y/>

バカとCLANNADと召喚獣

2011年11月30日17時50分発行